

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2016-182969

(P2016-182969A)

(43) 公開日 平成28年10月20日 (2016. 10. 20)

(51) Int.Cl.	F I	テーマコード (参考)
B 6 5 D 75/52 (2006.01)	B 6 5 D 75/52	3 E 0 6 4
B 6 5 D 33/14 (2006.01)	B 6 5 D 33/14	Z 3 E 0 6 7
B 6 5 D 30/16 (2006.01)	B 6 5 D 30/16	C 4 C 0 4 7
B 6 5 D 33/38 (2006.01)	B 6 5 D 33/38	4 C 0 6 6
A 6 1 J 15/00 (2006.01)	A 6 1 J 15/00	Z
審査請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 14 頁) 最終頁に続く		

(21) 出願番号 特願2015-63730 (P2015-63730)
 (22) 出願日 平成27年3月26日 (2015. 3. 26)

(71) 出願人 313004403
 株式会社フジシール
 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目1番9号
 100104640
 (74) 代理人 弁理士 西村 陽一
 (72) 発明者 川▲崎▼ 賢二
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番9号
 株式会社フジフレックス内
 (72) 発明者 峪 純平
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番9号
 株式会社フジフレックス内
 (72) 発明者 高野 忠
 大阪府大阪市淀川区宮原4丁目1番9号
 株式会社フジフレックス内

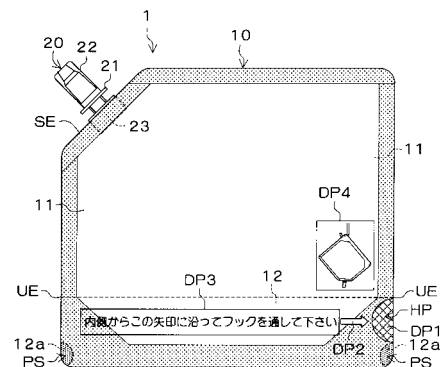
最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パウチ容器及びパウチ容器包装体

(57) 【要約】

【課題】吊下穴を形成する必要がなく、安定して吊り下げることができるパウチ容器を提供する。

【解決手段】表裏一対の外装シート11及び両外装シート11の下端部から内側に折り込まれて底ガセット部を形成する底ガセットシート12を有する容器本体10と、この容器本体10に装着される、内容物を注出するための注出口部材20とを備えている。容器本体10は、底ガセットシート12の周縁部が外装シート11の下部周縁部にヒートシールされた底シール部と、一対の外装シート11の周縁部が相互にヒートシールされた周縁シール部とを備えることによって袋状に形成されており、底ガセット部の両側縁において、部分的に接合されたポイントシール部PSを有している。容器本体10には、底ガセット部の側縁における上端UEとポイントシール部PSとの間の部分は吊下部材を挿入可能な吊下部HPであることを示す表示部DP1～DP4が設けられている。



【選択図】 図1

【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

表裏一対の外装シート及び両外装シートの下端部から内側に折り込まれて底ガセット部を形成する底ガセットシートを備え、

前記底ガセットシートの周縁部が前記外装シートの下部周縁部にヒートシールされた底シール部と、前記一対の外装シートの周縁部が相互にヒートシールされた周縁シール部とを備えることによって袋状に形成され、

前記底ガセット部の両側縁において、部分的に接合されたポイントシール部を有し、

前記外装シートにおける前記周縁シール部に注出口部が設けられた底ガセットタイプのパウチ容器であって、

前記底ガセット部の側縁における上端と前記ポイントシール部との間の部分は吊下部材を挿入可能な吊下部であることを示す表示部が設けられていることを特徴とするパウチ容器。

【請求項 2】

前記底ガセットシートは、その両側縁の一部が欠除されており、

前記底シール部における前記底ガセットシートの欠除部分で前記一対の外装シート同士が部分的にヒートシールされることによって、前記ポイントシール部が形成されている請求項 1 に記載のパウチ容器。

【請求項 3】

前記吊下部で吊り下げた状態で、前記吊下部を通る略鉛直線上に前記注出口部が配置されている請求項 1 又は 2 に記載のパウチ容器。

【請求項 4】

前記吊下部に吊下部材を挿入し易くする易挿入手段が設けられている請求項 1、2 又は 3 に記載のパウチ容器。

【請求項 5】

前記注出口部は、注出口部材によって形成されている請求項 1、2、3 又は 4 に記載のパウチ容器。

【請求項 6】

請求項 1、2、3、4 又は 5 に記載のパウチ容器と、内容物とを有するパウチ容器包装体。

【請求項 7】

医療用途に用いられ、前記内容物が医療用液剤である請求項 6 に記載のパウチ容器包装体。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

この発明は、例えば、流動食や経腸栄養剤等の内容物を充填する容器のように、吊り下げた状態で使用するパウチ容器及びパウチ容器包装体に関する。

【背景技術】**【0002】**

この種のパウチ容器としては、例えば、図 18 に示すようなものがある。このパウチ容器 50 は、同図に示すように、内面が熱接着性を有する合成樹脂製の柔軟性シートからなる包材によって袋状に形成された内容物が充填される底ガセットタイプの容器本体 51 と、この容器本体 51 に充填された内容物を注出するために容器本体 51 に装着された注出口部材 53 とを備えており、容器本体 51 には、底ガセット部を形成している底シール部 51a に吊下穴 52 が形成されている。

【0003】

従って、このパウチ容器 50 に内容物が充填包装されたパウチ容器包装体 P 50 は、図 19 に示すように、注出口部材 53 のキャップ 53a を外してチューブ C を接続し、吊下スタンドのフック H K 等に容器本体 51 の吊下穴 52 を引っかけて、注出口部材 53 が下

10

20

30

40

50

を向くように吊り下げた状態で内容物をチューブCを通して、人に投与するようになっている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献1】特開2006-082847号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

しかしながら、上述したように、容器本体51に形成された吊下穴52を吊下スタンドのフックHK等に引っかけて吊り下げるタイプのパウチ容器50は、吊り下げ状態が安定せず、同図に矢印で示すように、吊り下げたパウチ容器50が吊下穴52を中心に揺れ動いて容器本体51に表示された目盛り等が見にくくなるといった問題がある。

【0006】

また、上述した底ガセットタイプの容器本体51は、通常、長尺帯状の包材を送出しながら、底ガセット部となる部分を幅方向に折り込み、所定領域をヒートシールした後、所定形状に打ち抜くことによって製造され、後に残る打抜きかすは巻き取って廃棄されることになるが、上述したような吊下穴52を有する容器本体51を製造しようすると、吊下穴52を打ち抜かなければならないので、穴形状の打ち抜きかすが別途発生し、容器本体51全体を打ち抜いた後に残る連続した打抜きかすと一緒に巻き取って廃棄することができず、吊下穴52の打ち抜きかすだけを個別に処理しなければならないという問題もある。

【0007】

そこで、この発明の課題は、吊下穴を形成する必要がなく、安定して吊り下げることができるパウチ容器及びパウチ容器包装体を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0008】

上記の課題を解決するため、請求項1に係る発明は、表裏一対の外装シート及び両外装シートの下端部から内側に折り込まれて底ガセット部を形成する底ガセットシートを備え、前記底ガセットシートの周縁部が前記外装シートの下部周縁部にヒートシールされた底シール部と、前記一対の外装シートの周縁部が相互にヒートシールされた周縁シール部とを備えることによって袋状に形成され、前記底ガセット部の両側縁において、部分的に接合されたポイントシール部を有し、前記外装シートにおける前記周縁シール部に注出口部が設けられた底ガセットタイプのパウチ容器であって、前記底ガセット部の側縁における上端と前記ポイントシール部との間の部分は吊下部材を挿入可能な吊下部であることを示す表示部が設けられていることを特徴とするパウチ容器を提供するものである。

【0009】

また、請求項2に係る発明は、請求項1に係る発明のパウチ容器において、前記底ガセットシートは、その両側縁の一部が欠除されており、前記底シール部における前記底ガセットシートの欠除部分で前記一対の外装シート同士が部分的にヒートシールされることによって、前記ポイントシール部が形成されていることを特徴としている。

【0010】

また、請求項3に係る発明は、請求項1又は2に係る発明のパウチ容器において、前記吊下部で吊り下げた状態で、前記吊下部を通る略鉛直線上に前記注出口部が配置されていることを特徴としている。

【0011】

また、請求項4に係る発明は、請求項1、2又は3に係る発明のパウチ容器において、前記吊下部に吊下部材を挿入し易くする易挿入手段が設けられていることを特徴としている。

【0012】

10

20

30

40

50

また、請求項 5 に係る発明は、請求項 1、2、3 又は 4 に係る発明のパウチ容器において、前記注出口部は、注出口部材によって形成されていることを特徴としている。

【0013】

また、請求項 6 に係る発明は、請求項 1、2、3、4 又は 5 に記載のパウチ容器と、内容物とを有するパウチ容器包装体を提供するものである。

【0014】

また、請求項 7 に係る発明は、請求項 6 に記載のパウチ容器包装体において、医療用途に用いられ、前記内容物が医療用液剤であることを特徴としている。

【発明の効果】

【0015】

10

以上のように、請求項 1 に係る発明のパウチ容器は、底ガセット部の側縁における上端とポイントシール部との間の部分は、吊下部材を挿入可能な吊下部であることを示す表示部が設けられているので、ユーザーは、底ガセット部の側縁における上端とポイントシール部との間の部分に吊下スタンドのフック等を通して吊り下可能であることを容易に認識することができる。

【0016】

また、このパウチ容器に内容物を充填包装した請求項 6 に係る発明のパウチ容器包装体を吊り下げた状態では、吊下部に挿入した吊下スタンドのフック等が底シール部の側縁に挟み込まれることによって吊下状態が安定し、パウチ容器が揺れ動きにくくなるので、パウチ容器の向きを一旦調整しておく、その向きが容易に変わることがなく、パウチ容器

20

【0017】

また、このパウチ容器は、従来の吊下可能なパウチ容器とは異なり、容器本体に吊下穴が形成されていないので、容器本体の製造段階で、吊下穴の打抜きかすが発生することがなく、打抜きかすの廃棄処理が容易になるという効果もある。

【0018】

また、請求項 2 に係る発明のパウチ容器は、底ガセットシートの両側縁の一部が欠除されており、底シール部における底ガセットシートの欠除部分で一对の外装シート同士が部分的にヒートシールされることによって、ポイントシール部が形成されているので、接着剤等を用いて、底ガセット部の両側縁を別途接合する必要がない。

30

【0019】

また、請求項 3 に係る発明のパウチ容器は、吊下部で吊り下げた状態で、吊下部を通る略鉛直線上に注出口部が配置されているので、パウチ容器を吊り下げた状態では、注出口部が最下位置に位置するので、内容物を確実に注出することができる。

【0020】

また、請求項 4 に係る発明のパウチ容器は、吊下部に吊下部材を挿入し易くする易挿入手段が設けられているので、パウチ容器の吊下作業を容易に行うことができる。

【0021】

また、請求項 5 に係る発明のパウチ容器は、注出口部が、注出口部材によって形成されているので、注出口部にチューブ等を接続することが可能になる。

40

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】この発明に係るパウチ容器の一実施形態（扁平に折り畳んだ状態）を示す背面図である。

【図 2】同上のパウチ容器に内容物を充填したパウチ容器包装体を吊下部側から見た側面図である。

【図 3】同上のパウチ容器包装体における吊下部を示す拡大側面図である。

【図 4】（a）は同上のパウチ容器に装着されている注出口部材を示す正面図、（b）は同上の注出口部材におけるカバーを装着する前の状態を示す正面図、（c）は同上の注出口部材を構成しているカバーを示す正面図である。

50

【図 5】(a) は同上のパウチ容器包装体の吊下部へフックを挿入した状態を示す正面図、(b) は同上の状態を示す側面図である。

【図 6】同上のパウチ容器包装体を吊り下げた状態を示す図である。

【図 7】底シール部が左右非対称であるパウチ容器を示す背面図である。

【図 8】(a)、(b) は吊下部材であるフックの形状に沿うようなポイントシール部の形状を示す図である。

【図 9】(a) は他の実施形態であるパウチ容器を示す一部切欠背面図、(b) は他の実施形態であるパウチ容器包装体を示す底面図である。

【図 10】他の実施形態であるパウチ容器を扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

【図 11】同上のパウチ容器に内容物を充填したパウチ容器包装体を吊下部側から見た側面図である。

10

【図 12】他の実施形態であるパウチ容器における吊下部を示す部分拡大背面図である。

【図 13】他の実施形態であるパウチ容器における吊下部を示す部分拡大背面図である。

【図 14】他の実施形態であるパウチ容器における吊下部を示す部分拡大背面図である。

【図 15】他の実施形態であるパウチ容器を扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

【図 16】他の実施形態であるパウチ容器を扁平に折り畳んだ状態を示す背面図である。

【図 17】同上のパウチ容器に内容物が充填包装されたパウチ容器包装体を吊り下げた状態を示す図である。

【図 18】従来の吊り下げタイプのパウチ容器を扁平に折り畳んだ状態を示す正面図である。

20

【図 19】同上のパウチ容器に内容物が充填包装されたパウチ容器包装体を吊り下げた状態を示す図である。

【発明を実施するための形態】

【0023】

以下、実施の形態について図面を参照して説明する。図 1 は、流動食、輸液剤、経腸栄養剤、血液等の医療用液剤が内容物として充填される底ガセットタイプのパウチ容器 1 を示している。このパウチ容器 1 は、同図に示すように、柔軟性シートによって袋状に形成された容器本体 10 と、この容器本体 10 に装着される、内容物を注出するための注出口部材 20 とを備えている。このパウチ容器 1 に内容物を充填包装すると、図 2 に示すように、底ガセット部が広がったパウチ容器包装体 P 1 が出来上がり、自立するようになっている。

30

【0024】

前記容器本体 10 を形成している柔軟性シートは、通常、単層又は複層の樹脂フィルムから構成されており、ベースフィルム層と、ヒートシール性を付与するシーラント層とを有する複層シートが好適であり、高いガスバリア性が要求される場合には、ベースフィルム層とシーラント層との間にガスバリア層を設けることが好適である。

【0025】

前記ベースフィルム層を構成するフィルムとしては、ポリエチレンテレフタレート等のポリエステル、ポリエチレン、ポリプロピレン等のポリオレフィン、ナイロン - 6、ナイロン - 66 などのポリアミド及びエチレン - ビニルアルコール共重合体 (EVOH) 等から構成される一層又は二層以上の延伸又未延伸フィルムが例示できる。

40

【0026】

前記シーラント層を構成するフィルムとしては、低密度ポリエチレン (LDPE)、直鎖状低密度ポリエチレン (LLDPE)、高密度ポリエチレン (HDPE)、エチレン - プロピレン共重合体 (EP)、未延伸ポリプロピレン (CPP)、二軸延伸ナイロン (ON)、エチレン - オレフィン共重合体、エチレン - アクリル酸共重合体 (EAA)、エチレン - メタクリル酸共重合体 (EMAA) 及びエチレン - 酢酸ビニル共重合体 (EVA) 等から構成される一層又は二層以上の延伸又未延伸フィルムが例示できる。

【0027】

前記ガスバリア層としては、アルミニウム等の金属薄膜、又は塩化ビニリデン (PVD

50

C)、エチレン・ビニルアルコール共重合体(EVOH)などの樹脂フィルム、或いは任意の合成樹脂フィルム(例えば、ベースフィルム層であってもよい)に、アルミニウム、酸化アルミニウムやシリカ等の無機酸化物などを蒸着(又はスパッタリング)したフィルムが例示できる。

【0028】

前記柔軟性シートには、後述する使用上の注意事項等の表示をすべく、印刷層が設けられている。また、医療用液剤の液量を計測するための目盛りを設けることが好ましい。なお、目盛りの他にも、商品名、イラスト、原材料等の能書事項等をさらに設けてもよい。

【0029】

前記容器本体10は、同図に示すように、胴部を形成する前記柔軟性シートからなる一対の外装シート11と、両外装シート11の下端部から内側に折り込まれて底ガセット部を形成する前記柔軟性シートからなる底ガセットシート12とから構成されており、折り込まれた底ガセットシート12の内面の周縁が外装シート11の下部内面にヒートシールされると共に、外装シート11の内面の両側縁が相互にヒートシールされることで、袋状に形成されている。以下、外装シート11と底ガセットシート12とのヒートシール部分を「底シール部」、一対の外装シートの周縁部同士のヒートシール部分を「周縁シール部」という。なお、図1における網掛け表示部分がヒートシールされる領域を示している。

10

【0030】

前記外装シート11、11は、上縁の一部に傾斜縁SEを有する略五角形状をしており、両外装シート11、11の傾斜縁SEに注出口部材20が装着されている。

20

【0031】

前記底ガセットシート12の両側縁には、図1に示すように、二つ折りした状態で相互に一致する切欠部12aが円弧状に欠除されて形成されており、図3に示すように、この切欠部12aを介して、外装シート11、11の両側縁における下端部同士が部分的にヒートシールされたポイントシール部PSが形成され、これによって、底ガセット部の両側縁の下部がそれぞれ部分的に接合された状態となっている。

【0032】

前記注出口部材20は、図4(a)~(c)に示すように、先端部21aを捻り取ることによって注出口が形成される口部本体21と、この口部本体21を覆うように装着されるカバー22と、口部本体21に連設された、断面形状が舟形状又は楕円形状の装着部23とを備えており、装着部23が外装シート11、11における傾斜縁SEに挟み込まれた状態で、外装シート11、11にヒートシールされている。なお、この注出口部材20は、カバー22を回転させることによって口部本体21の先端部21aが捻り取られて口部本体21から外れ、注出口が形成された口部本体21にチューブを接続することができるようになっている。なお、注出口部材20はこれに限定されず、例えば口部本体に螺着される蓋を備えた構成であってもよい。

30

【0033】

このパウチ容器1では、底ガセット部の両側縁における上端UEとポイントシール部PSとの間の部分は相互に接合されておらず、他方の側縁(傾斜縁SEが形成されていないほうの側縁)におけるこの未接合部分を吊下部HPとして使用することができる。具体的には、図5(a)、(b)に示すように、パウチ容器包装体P1の吊下部HPに、吊下スタンドのフックHK等を挿入し、図6に示すように、そのフックHK等にポイントシール部PSを引っかけることによってパウチ容器包装体P1を吊り下げられるようになっている。このとき、パウチ容器1が底ガセットタイプであることから、底ガセット部を構成する底ガセットシート12の外表面(すなわち底部)がフックHKを吊下部HPに導くガイドとして機能する。従って、フックHK等の吊下部材の形状に合わせて挿入しやすいようなガイド機能を発揮させるために、図7に示すように、底ガセット部における底シール部の形状を両側非対称としてもよい。

40

【0034】

また、フックHK等の吊下部材の吊下部HPへの挿入作業性を考慮すると、底ガセット

50

部の両側縁における上端UEとポイントシール部PSとの間の非接合部分の長さを大きくするために、底ガセットシート12の折り込み長さを大きくすることが好ましい。また、ポイントシール部PSを底ガセットシート12の下端位置に形成することも好適である。あるいは、これらを共に有してもよい。また、パウチ容器の吊下安定性を考慮すると、図8(a)、(b)に示すように、ポイントシール部PSは、その縁部をフックHK等の吊下部材の形状に沿うような形状にすることが、吊り下げられた状態がより安定するため望ましい。

【0035】

なお、内容物である医療用液剤が充填されたパウチ容器包装体P1を吊り下げて人に投与する場合は、パウチ容器包装体P1を吊り下げる前に、予め、注出口部材20のカバー22を外してチューブCを接続しておくことが望ましい。

10

【0036】

前記容器本体10を構成している外装シート11には、図1に示すように、「吊下位置を示す表示」、「吊下使用を示す表示」及び「吊下状態を示す表示」がそれぞれ施されている。「吊下位置を示す表示」としては、例えば、吊下部HPとなる交斜線で示す領域を着色した着色表示部DP1や、吊下部HPを指し示す矢印表示部DP2が、「吊下使用を示す表示」としては、例えば、「内側からこの矢印に沿ってフックを通して下さい」等の説明表示部DP3が、「吊下状態を示す表示」としては、例えば、パウチ容器包装体P1の吊下状態を示すイラスト表示部DP4が挙げられる。

20

【0037】

以上のように、このパウチ容器1は、底ガセット部の側縁における上端UEとポイントシール部PSとの間の部分は、吊下部材を挿入可能な吊下部HPであることを示す表示部が設けられているので、このパウチ容器1に医療用液剤が充填包装されたパウチ容器包装体P1を取り扱うユーザーは、底ガセット部の側縁における上端UEとポイントシール部PSとの間の部分に吊下スタンドのフック等を通して吊下可能であることを容易に認識することができる。

【0038】

また、パウチ容器包装体P1を吊り下げた状態では、吊下部HPに挿入した吊下スタンドのフックHK等が、図5(b)に示すように、底シール部の側縁に挟み込まれることによって吊下状態が安定し、パウチ容器包装体P1が揺れ動きにくくなるので、パウチ容器包装体P1の向きを一旦調整しておく、その向きが容易に変わることがなく、パウチ容器包装体P1に表示されている目盛り等の表示が見やすくなるという効果がある。このように、揺動を防止し、安定して吊り下げて内容物を注出することができることから、このパウチ容器包装体P1は、流動食、輸液剤、経腸栄養剤、血液等の医療用液剤を内容物とする医療用途に好適に用いることができる。

30

【0039】

また、このパウチ容器1は、従来の吊下可能なパウチ容器とは異なり、容器本体に吊下穴が形成されていないので、容器本体10の製造段階で、吊下穴の打抜きかすが発生することがなく、打抜きかすの廃棄処理が容易になるという効果もある。

【0040】

また、このパウチ容器1は、上縁の一部に傾斜縁SEを有する略五角形状の外装シート11、11の傾斜縁SEに注出口部材20が装着されており、略五角形状の外装シート11、11の他方の下端コーナー部付近に吊下部HPが形成されているので、図6に示すように、パウチ容器包装体P1を吊り下げた状態では、注出口部材20が最下位置に位置することになり、医療用液剤を確実に注出することができる。

40

【0041】

なお、上述したパウチ容器1には、「吊下位置を示す表示」、「吊下使用を示す表示」及び「吊下状態を示す表示」の3種類の表示が全て施されているが、これに限定されるものではなく、少なくとも、1種類の表示が施されていればよく、複数種類の表示を組み合わせることもよい。

50

【 0 0 4 2 】

また、上述したパウチ容器 1 には、吊下部材を挿入可能な吊下部 H P であることを示す表示部が外装シート 1 1 に設けられているが、これに限定されるものではなく、底ガセットシート 1 2 に表示部を設けてもよい。このように、底ガセットシート 1 2 に表示部を設けると、外装シート 1 1 を種々の情報を表示する表示領域として最大限に利用することが可能となる。具体的には、図 9 (a) に示すように、外装シート 1 1、1 1 間に折り込まれた底ガセットシート 1 2 における底シール部に矢印表示部 D P 2 や説明表示部 D P 3 等の表示部を設けてもよい。特に、表示の見やすさを考慮すると、同図 (b) に示すように、底ガセットシート 1 2 における底面となる未シール領域に矢印表示部 D P 2 や説明表示部 D P 3 等の表示部を設けておくことが好ましい。

10

【 0 0 4 3 】

また、前記吊下部 H P に、吊下部材を挿入し易くする易挿入手段を設けることが好ましい。図 1 0 に示すパウチ容器 2 では、易挿入手段として、底シール部の側縁における吊下部 H P に切欠部 1 0 a を形成している。このパウチ容器 2 に医療用液剤を充填包装することによって底ガセット部が広がったパウチ容器包装体 P 2 は、図 1 1 に示すように、吊下部 H P 部分が切欠部 1 0 a によって大きく開口し、フック等の吊下部材を挿入しやすくなると共に、吊下部として利用可能であることを認識しやすくなるという効果が得られる。

【 0 0 4 4 】

前記易挿入手段としては、上述したように、底シール部の側縁における吊下部 H P に切欠部 1 0 a を形成する以外に、吊下部 H P の剛性を低下させることが考えられる。吊下部 H P の剛性を低下させる具体的な手法としては、例えば、図 1 2 に示すように、底シール部における吊下部 H P となる領域については、外装シート 1 1 と底ガセットシート 1 2 とを部分的にヒートシールしない未シール部 1 0 b を形成したり、図 1 3 に示すように、底シール部の側縁における吊下部 H P に横方向に延びる切目 1 0 c を形成したり、図 1 4 に示すように、底シール部の側縁における吊下部 H P に横方向に延びる押し罫線 1 0 d を形成したりすることが挙げられる。また、押し罫線 1 0 d に代えて、ハーフカットやミシン目状の罫線等を採用することも可能である。

20

【 0 0 4 5 】

また、上述したパウチ容器 1、2 では、容器本体 1 0 に注出口部材 2 0 だけが装着されているが、例えば、図 1 5 に示すパウチ容器 3 のように、スクリュキャップタイプの注入口部材 3 0 を容器本体 1 0 の右側縁に装着しておくこと、希釈水等を容器本体 1 0 に注入することが可能となり、容器本体 1 0 内に付着している医療用液剤についても注入した希釈水等で洗い流して投与することができる。

30

【 0 0 4 6 】

また、上述したパウチ容器 1、2、3 では、容器本体 1 0 の傾斜縁 S E に注出口部材 2 0 が装着されているが、これに限定されるものではなく、注出口部材 2 0 は、周縁シール部に装着されていればよい。例えば、図 1 6 に示すパウチ容器 4 のように、容器本体 1 0 A の上縁の幅方向の中央部に注出口部材 2 0 を装着してもよく、このパウチ容器 4 の場合は、底ガセット部の両側縁における上端 U E とポイントシール部 P S との間の未接合部分を吊下部 H P として使用することができる。図 1 7 に示すように、このパウチ容器 4 に医療用液剤が充填包装されたパウチ容器包装体 P 4 を吊り下げると、注出口部材 2 0 が真下を向かず、若干傾いた状態となるが、容器本体 1 0 A 内の医療用液剤はほとんど注出されるので、特に問題とはならない。なお、容器本体 1 0 A 内に僅かに残った注出しきれない医療用液剤については、吊り下げたパウチ容器 4 を若干傾けることで、完全に注出することができる。

40

【 0 0 4 7 】

また、上述した各実施形態では、流動食等の医療用薬剤を充填する医療用パウチ容器について説明したが、吊り下げた状態で内容物を注出することができるものであれば特に限定されず、様々な用途に用いられる種々のパウチ容器に有効である。

【 0 0 4 8 】

50

また、上述した実施形態では、注出口部材 20 が装着されたパウチ容器について説明したが、これに限定されるものではなく、注出口部が存在していれば、例えばシール部の形状で注出口部を形成するといった従来公知の注出口部材を装着していないパウチ容器についても、本発明を適用することができることはいうまでもない。

【産業上の利用可能性】

【0049】

本発明は、吊り下げた状態で内容物を注出するパウチ容器に利用することができる。

【符号の説明】

【0050】

P 1、P 2、P 4 パウチ容器包装体

10

1、2、3、4 パウチ容器

10、10A 容器本体

10a 切欠部

10b 未シール部

10c 切目

10d 押し罫線

11 外装シート

12 底ガセットシート

12a 切欠部

20 注出口部材

20

21 口部本体

21a 先端部

22 カバー

23 装着部

30 注入口部材

C チューブ

DP 1 着色表示部

DP 2 矢印表示部

DP 3 説明表示部

DP 4 イラスト表示部

30

HP 吊下部

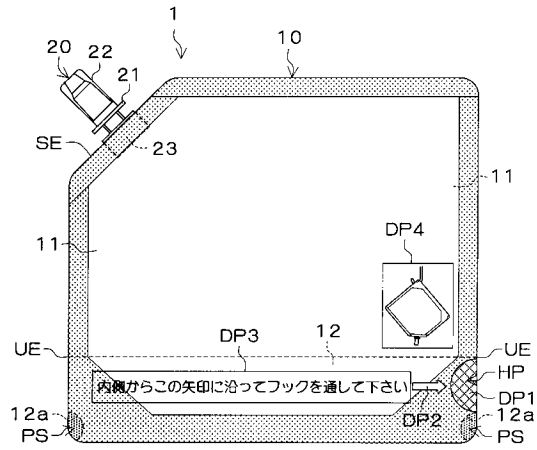
HK フック

PS ポイントシール部

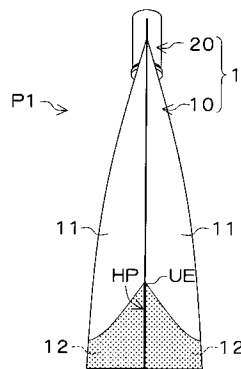
SE 傾斜縁

UE 底ガセット部の上端

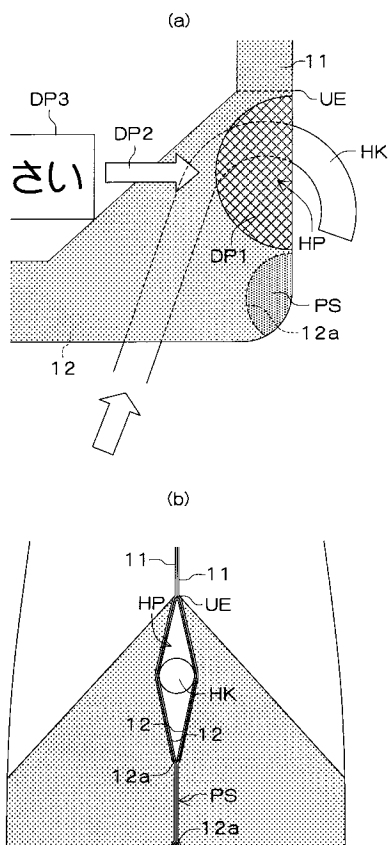
【図 1】



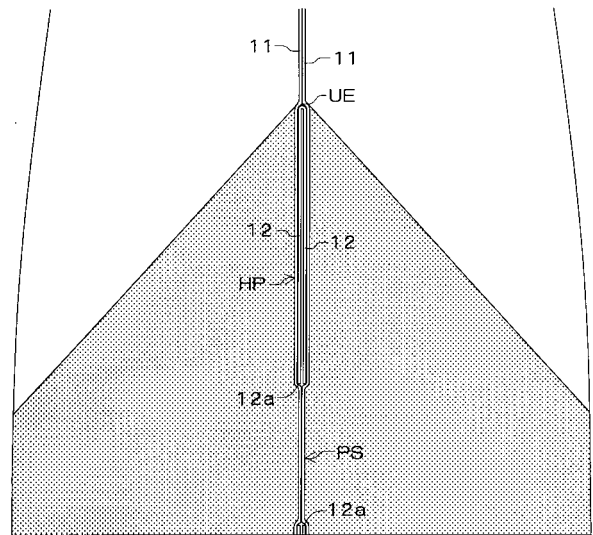
【図 2】



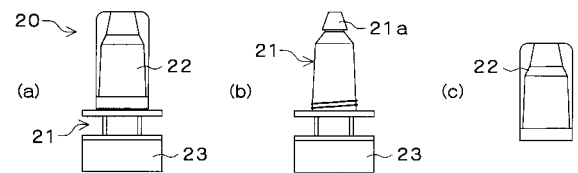
【図 5】



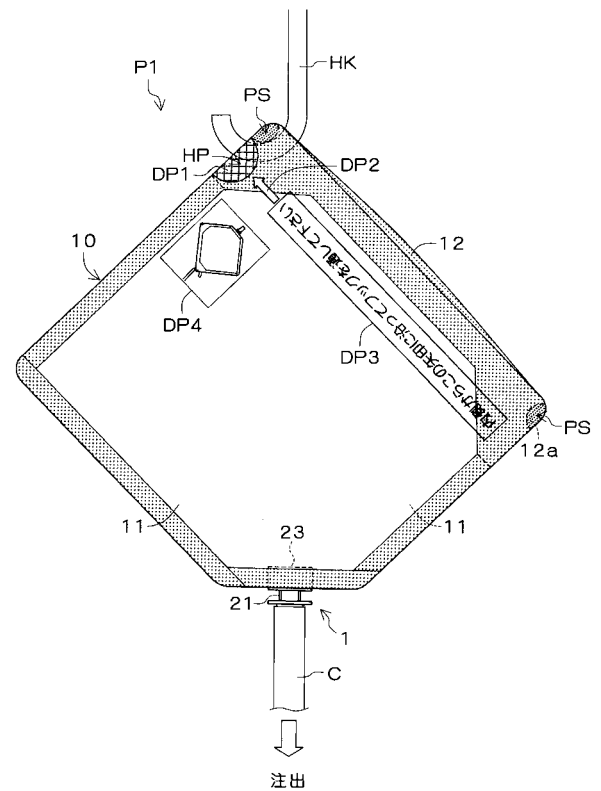
【図 3】



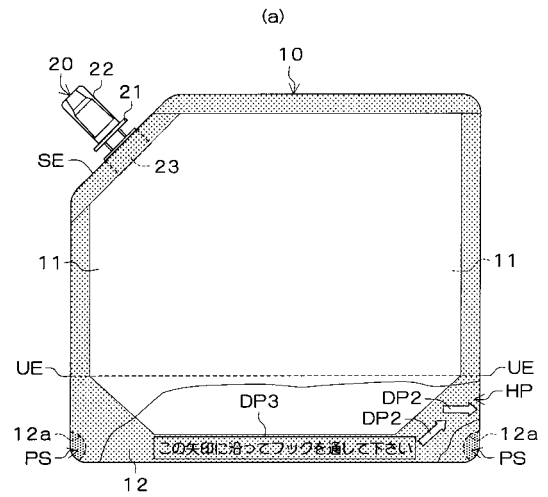
【図 4】



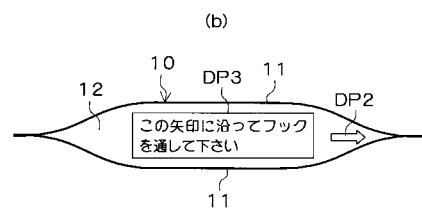
【図 6】



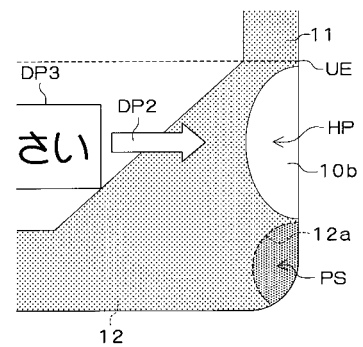
【 図 9 】



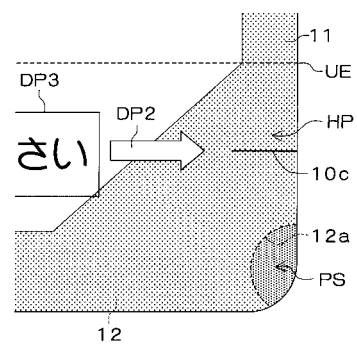
(a) (b)



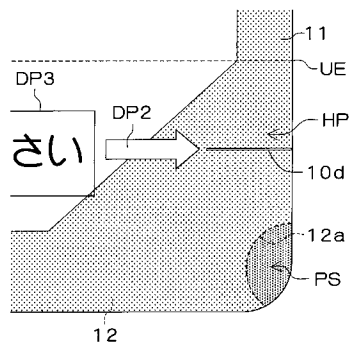
【 図 1 2 】



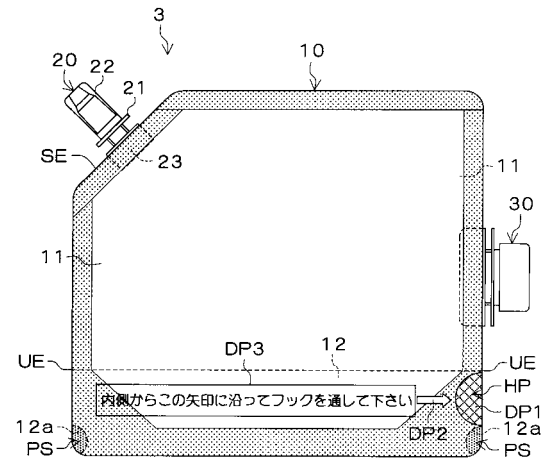
【 図 1 3 】



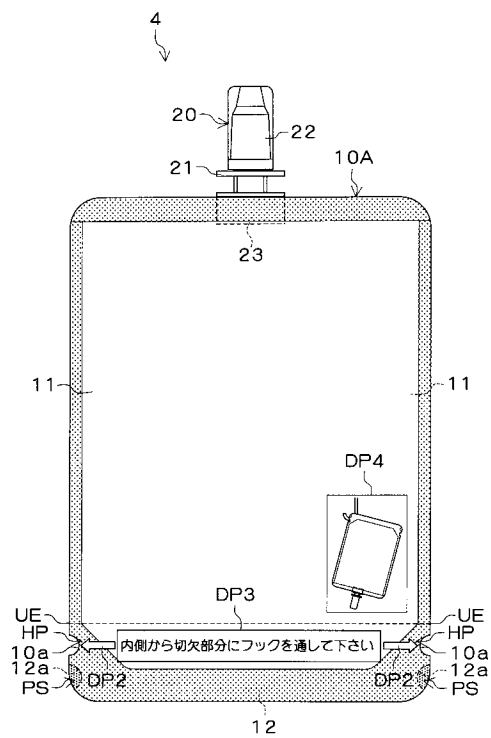
【図 14】



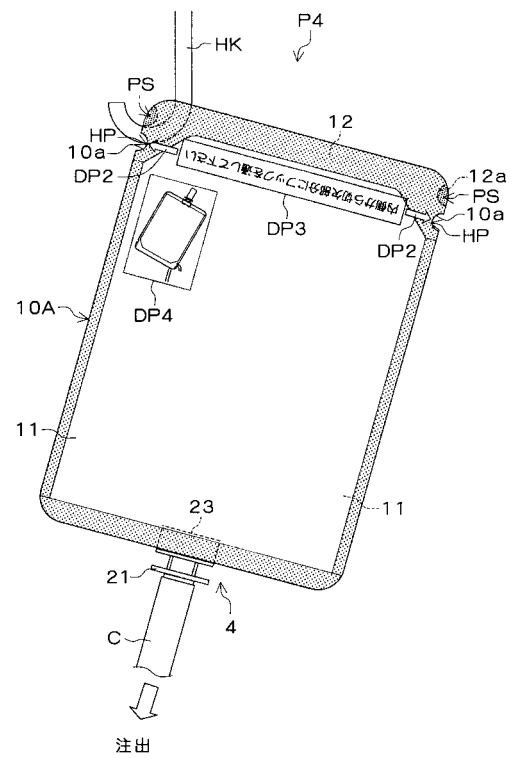
【図 15】



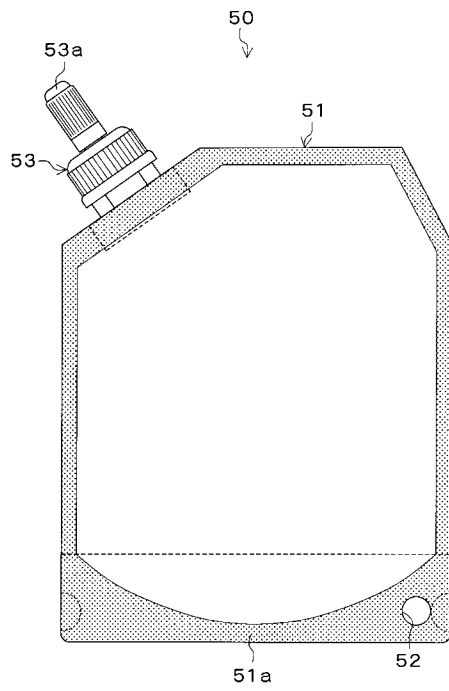
【図 16】



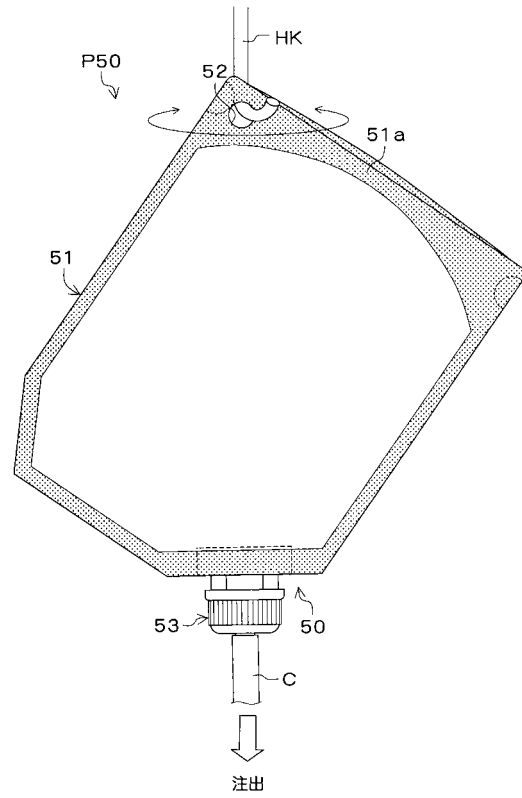
【図 17】



【図 18】



【図 19】



(51) Int.Cl.

テーマコード（参考）

A 6 1 M	31/00	
A 6 1 J	1/00	3 9 0 J
A 6 1 J	1/00	3 1 3 J

F ターム(参考)	3E064	AB23	BA17	BA26	BA27	BA28	BA29	BA30	BA36	BA55	BB03
		BC08	BC13	BC18	EA04	GA04	HA06	HB01	HB02	HB05	HK01
		HL06	HL10	HMO1	HMO3	HN65	HR08				
	3E067	AA03	AB01	AB81	BA12A	BB12A	BB14A	BB15A	BB16A	BB25A	CA04
		CA24	EA06	EB01	EB02	EB03	EB32	EE02	EE06	EE15	EE40
		FA01	FC01								
	4C047	AA11	BB04	BB13	BB17	BB19	BB20	BB24	BB25	BB29	CC01
		CC05	CC27	DD06	DD23	DD24	DD25	DD26	DD27	FF06	
	4C066	AA07	BB01	CC01	DD01	EE10	GG01	GG20	NN03		